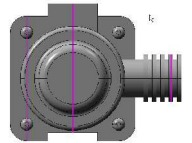
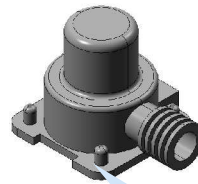
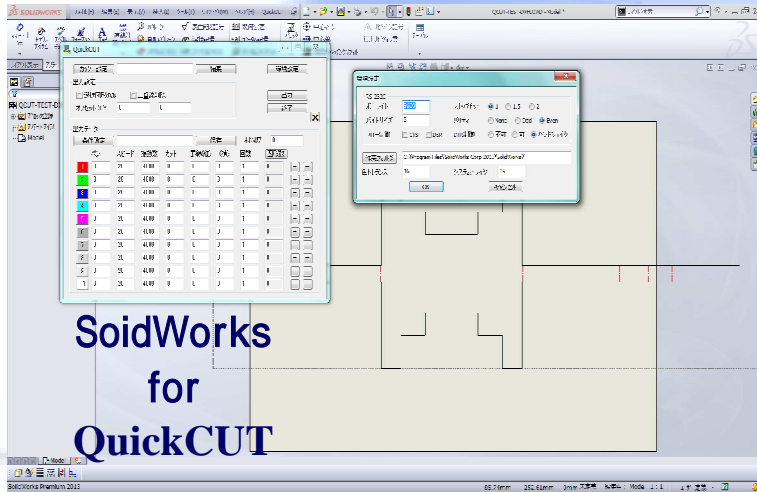
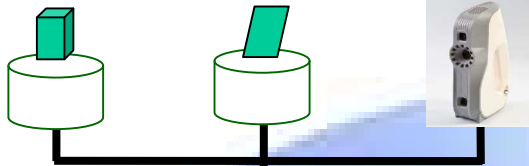


SolidWorks for QuickCUT 運用例

3Dデータ 2Dデータ 3次元測定データ



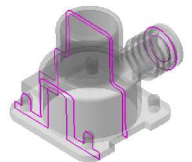
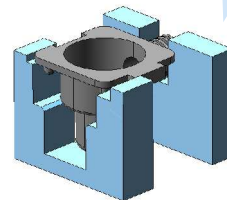
POINT 1

3次元製品データから緩衝材設計

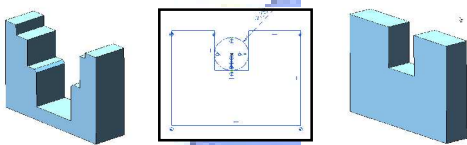
POINT 2

・ソリッド サーフース展開

・段ボール緩衝材データ生成



緩衝材の形状を決める為、製品から断面線を抽出します。



フォーム材カット

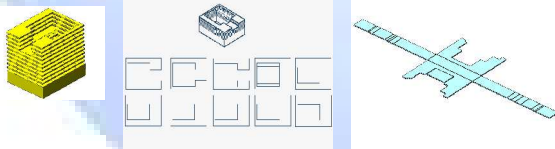


カッティングマシン

最小 1300×1300



3次元データの断面を自由な場所で、指定してフォーム材、発泡スチロールのデータを簡易に作成する事が可能です。勿論、2次元データにして即カッティングマシンで緩衝材の確認作業も行なえます。



段ボールカット



作成された緩衝材データ(ソリッド)から厚みのある段ボールの面データ(サーフェース)を構築、底面を指定後、1コマンドで2次元展開する事が出来る為、段ボール緩衝設計に威力を発揮します。

また、段ボールの厚みピッチで断面データが簡単に出来ますので、緩衝積層段ボール作成にも利用できます。



有限会社アイ・ワークス

<http://www.iw-labo.co.jp>

〒105-0012 東京都港区芝大門2-1-18

GS ハイム芝大門 203

Tel:03-5776-1961/Fax:03-5776-1962